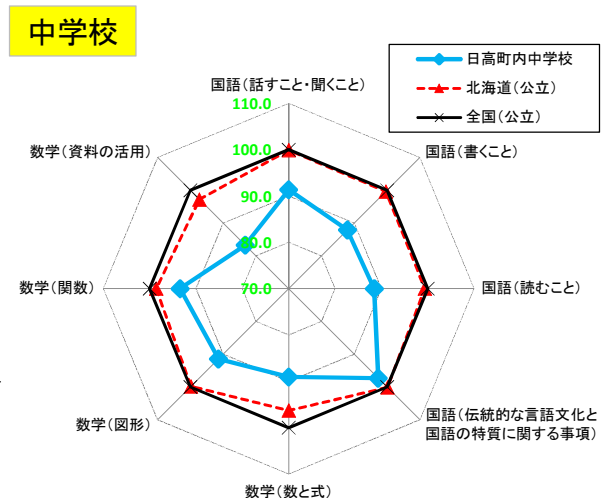
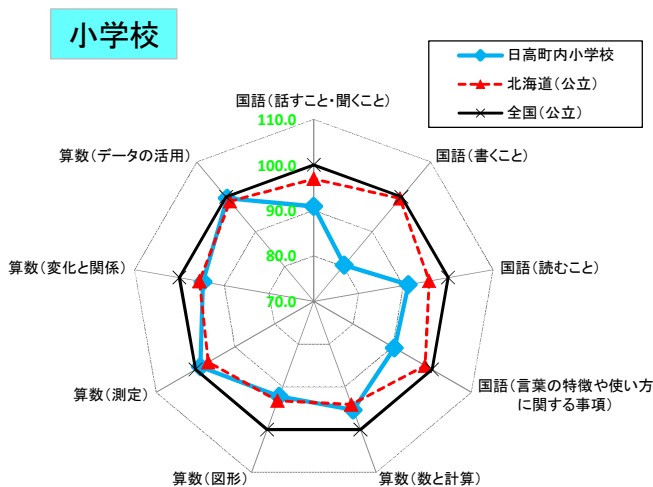


■日高町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:83人）（中学校数:4校、生徒数:91人）

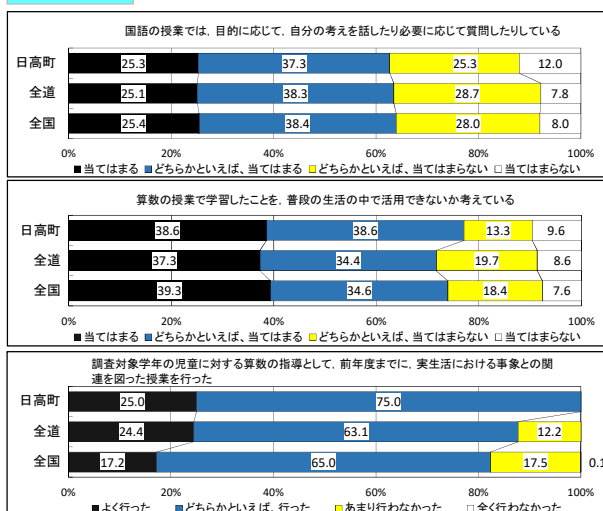
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

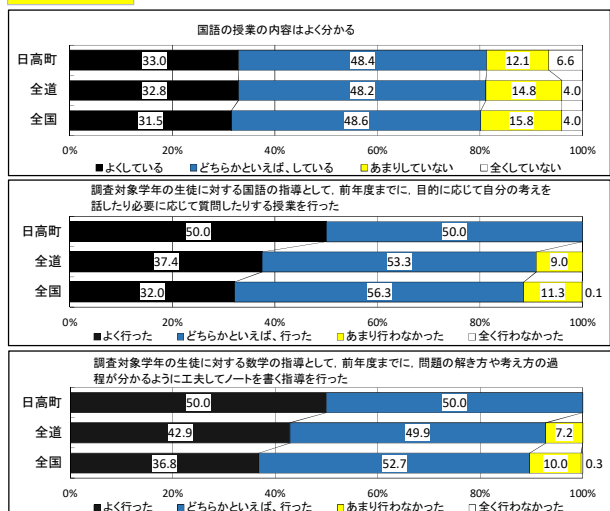


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語科の授業において、教科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの視点に基づく授業を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていると回答した児童の割合が全道を上回るとともに、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の平均正答率が全道に最も近くなったと考えられる。

調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えていると回答した児童の割合が全道を上回り、「測定」及び「データの活用」の平均正答率が全国とほぼ同様になったと考えられる。

中学校

調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

数学科の授業において、数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートを書く指導など、教科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びに基づく授業を行ったことにより、授業改善が図られ、「関数」の平均正答率が全国に最も近くなったと考えられる。

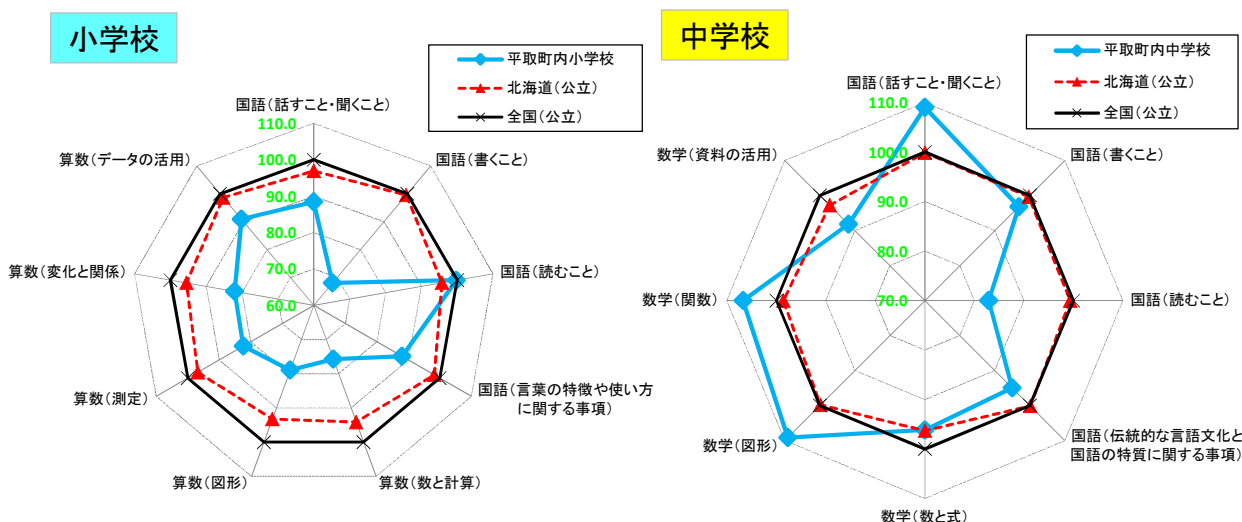
【日高町の学力向上策】

- ◎ 学力向上3年次計画に基づく、教科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進
- ◎ 校種別及び中学校毎の課題解決に向けた日高町学力向上推進委員会の実施
- ◎ 生活習慣づくりの支援及び家庭学習の充実に向けた校種間、家庭及び地域との連携の強化

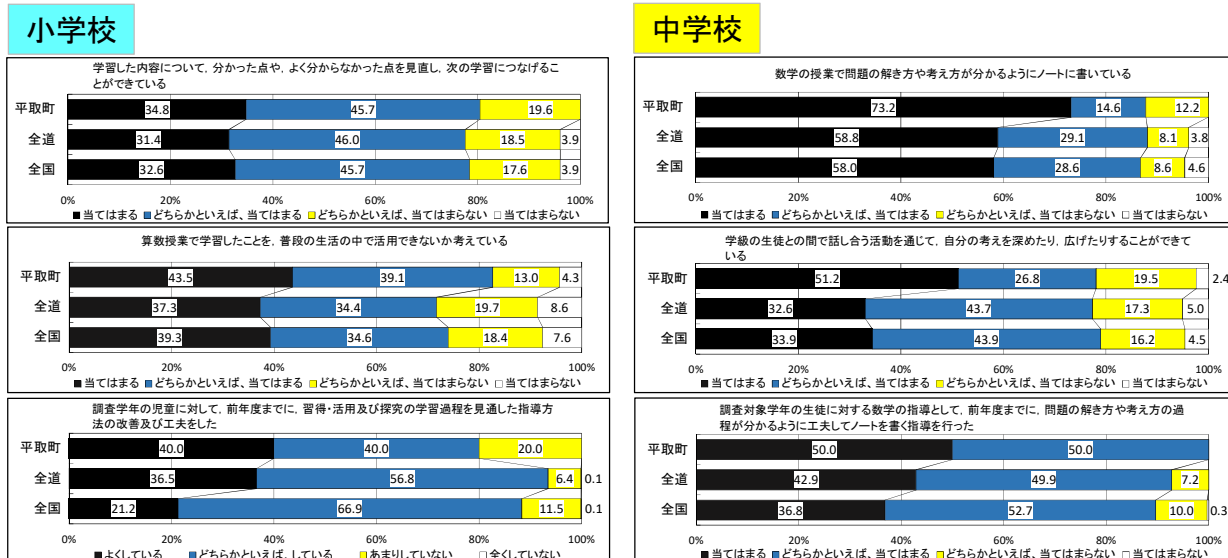
■平取町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:46人）（中学校数:2校、生徒数:41人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語科の授業において、主体的・対話的で深い学びの視点に基づく授業を行ったことにより、授業改善が図られ、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「読むこと」の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。 調査学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の工夫を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないと考えていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。	国語科の授業において、主体的・対話的で深い学びの視点に基づく授業を行ったことにより、授業改善が図られ、学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答する生徒の割合が全国を上回るとともに、「話すこと・聞くこと」の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。 調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、生徒の考えを重視した授業が展開され、数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていると回答した生徒の割合が、全国を上回るとともに、数学の「関数」、「図形」の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

【平取町の学力向上策】

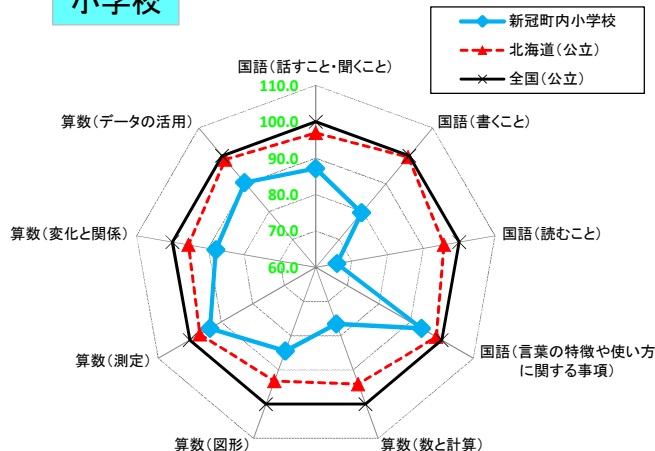
- ◎ 町指定教育推進事業・公開研究会による「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善の推進
- ◎ 長期休業中における学習サポート及び公営塾の通年開講による学習サポートの充実
- ◎ ICT支援員を活用した、学校毎のICT実技講習会及び全町規模のオンライン研修会の開催

■新冠町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:30人）（中学校数:1校、生徒数:40人）

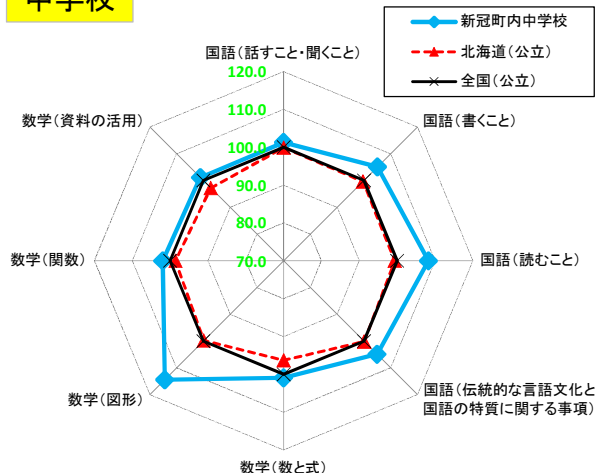
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

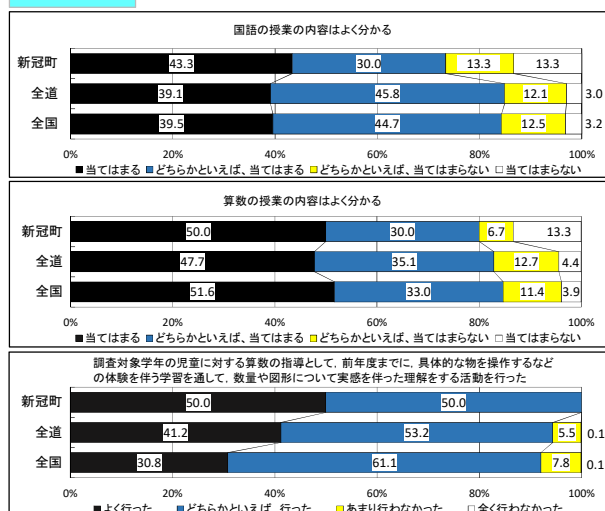


中学校

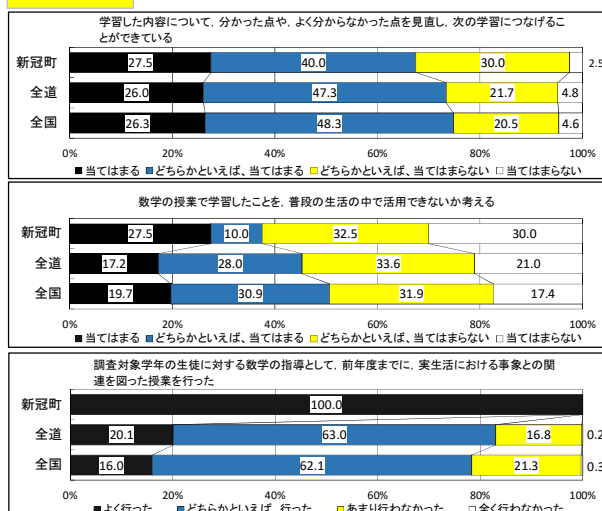


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語科の授業において、児童の学び方を重視した指導方法を確立したことにより、授業改善が図られ、国語の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の平均正答率が全道に最も近くなったと考えられる。

調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、授業改善が図られ、算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全道を上回るとともに、「測定」の平均正答率が最も全道に近くなったと考えられる。

中学校

国語科の授業において、生徒の学び方を重視した授業を行ったことにより、授業改善が図られ、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答する生徒の割合が全国を上回るとともに、国語の全ての領域・事項の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、授業改善が図られ、数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える」と回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、数学の全ての領域の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

【新冠町の学力向上策】

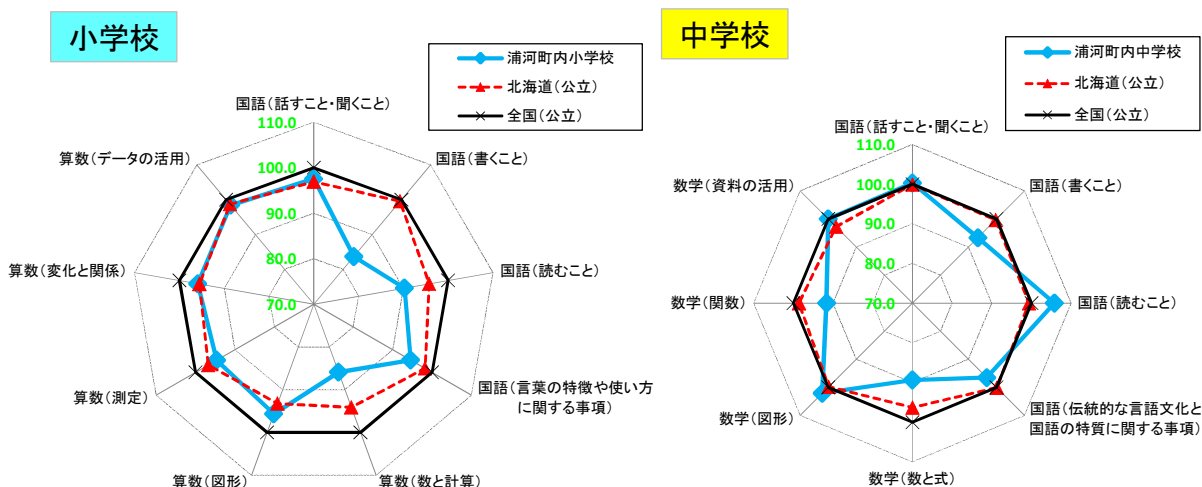
- ◎ 幼小中接続・小中一貫を意識したカリキュラムマネジメント及び「個別的な学びと協働的な学び」を重視した授業改善の推進
- ◎ ICT機器の積極的な活用と一人一台端末の有効活用した教育活動の推進
- ◎ 校種連携による学習規律の徹底と保護者と連携した家庭学習の習慣化

■浦河町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:65人）（中学校数:2校、生徒数:20人）

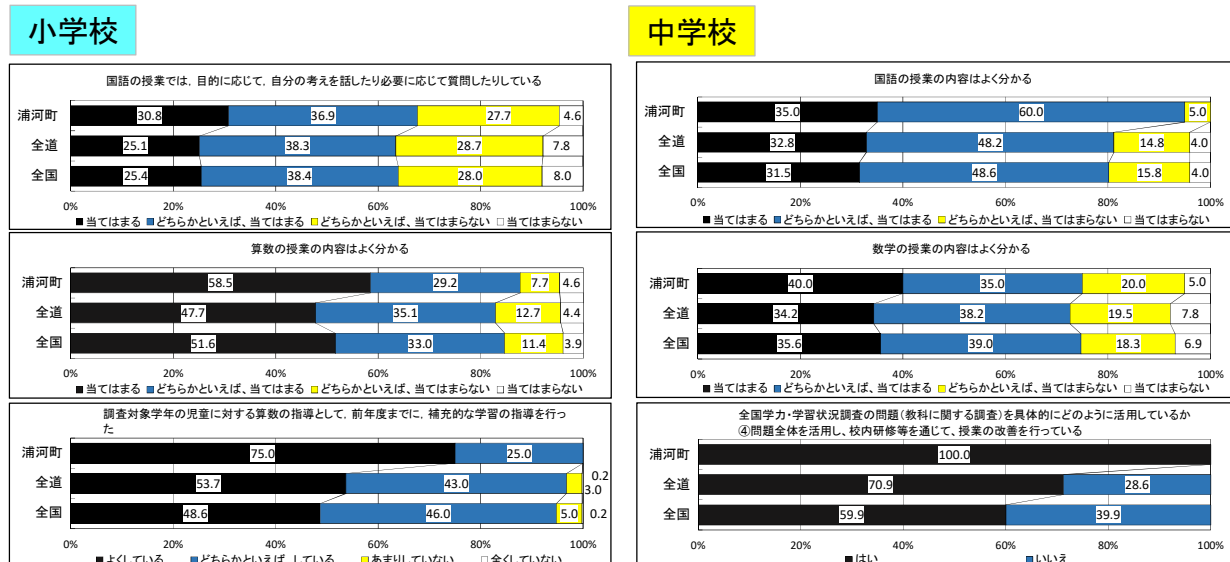
※新型コロナウイルス感染症の影響で後日実施したデータは、今回の調査結果に含めていません。

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語科の授業において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「話すこと・聞くこと」の平均正答率が全道を上回ったと考えられる。 調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行ったことにより、学習内容の理解が図られ、算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国を上回るとともに、算数の「図形」、「変化と関係」の平均正答率が全道を上回ったと考えられる。	国語科の授業において、全国学力・学習状況調査の問題を、問題全体を活用し、校内研修等を通じて、授業の改善を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の授業の内容はよく分かる」と回答する生徒の割合が全国を上回るとともに、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。 数学科の授業において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を行ったことにより、授業改善が図られ、数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が、全国を上回るとともに、数学の「図形」の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

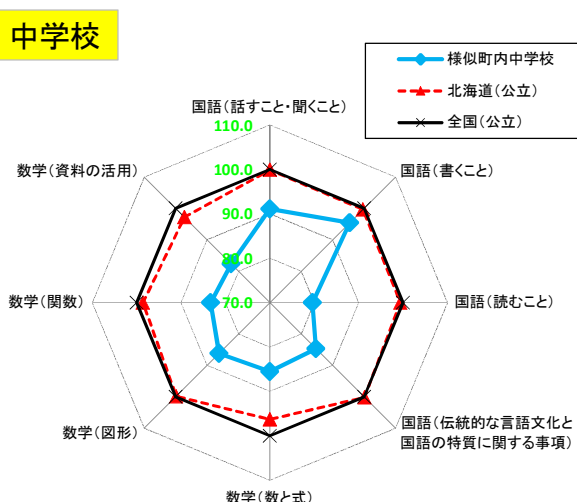
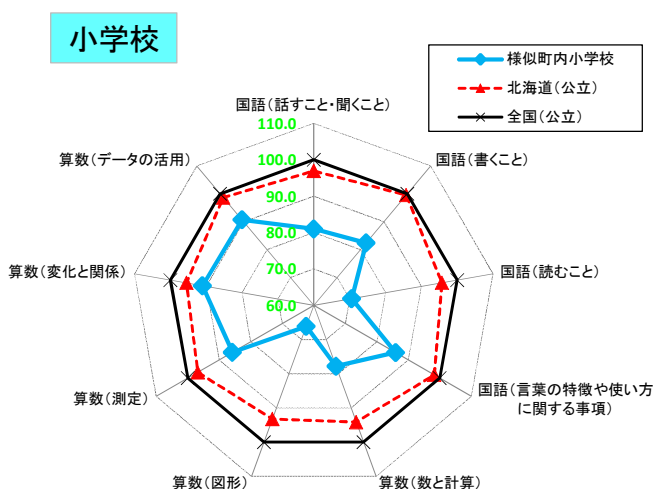
【浦河町の学力向上策】

- ◎ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進及び学力向上に係る研修の充実
- ◎ 「学力向上推進委員会」による家庭と連携した家庭学習の取組
- ◎ 小・中・高の12年間の発達や学びを見通した「小中高連携協議会」による連携及び情報共有

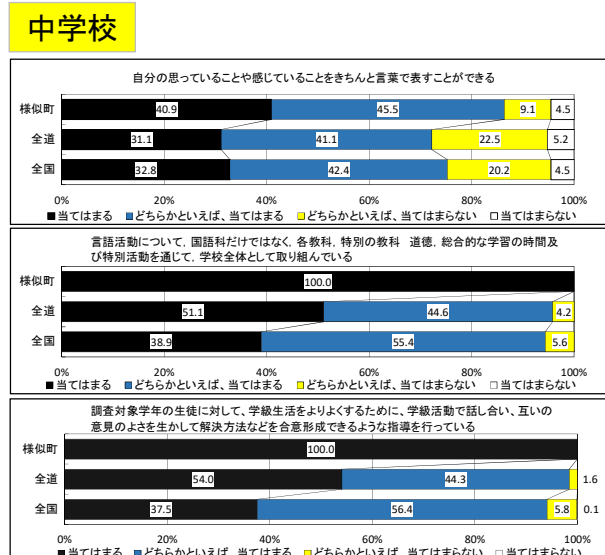
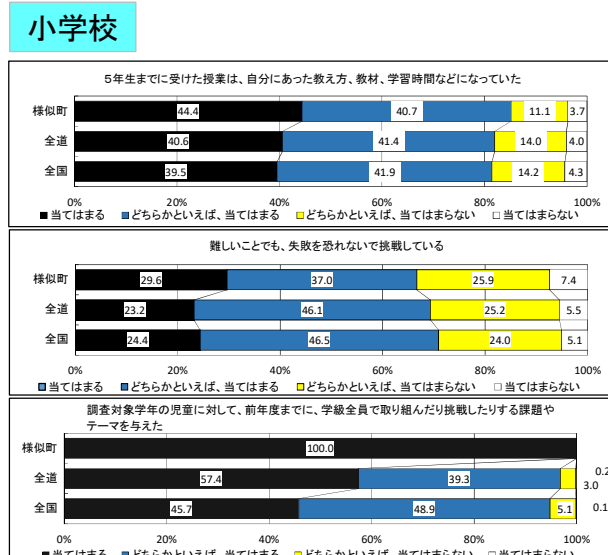
■様似町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:27人）（中学校数:1校、生徒数:22人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
小・中学校の9年間を見通した、児童の学習のつまずきを把握し、学校種の垣根を越えた教員の指導体制を構築したことにより、個に応じた指導が図られ、5年生までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間になっていたと答えた児童の割合が、全道及び全国平均を上回ったと考えられる。 調査対象学年の児童に対し、学級全体で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えたことにより、児童の粘り強く取り組む力が育まれ、難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していると回答した児童の割合が、全道及び全国平均を上回ったと考えられる。

中学校
言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、生徒の言語能力が育まれ、国語の「書くこと」の平均正答率が、全道及び全国に最も近くなったと考えられる。 調査対象学年の生徒に対して、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行ったことにより、生徒の表現力が育成され、自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができていると回答した生徒の割合が、全道及び全国を上回ったと考えられる。

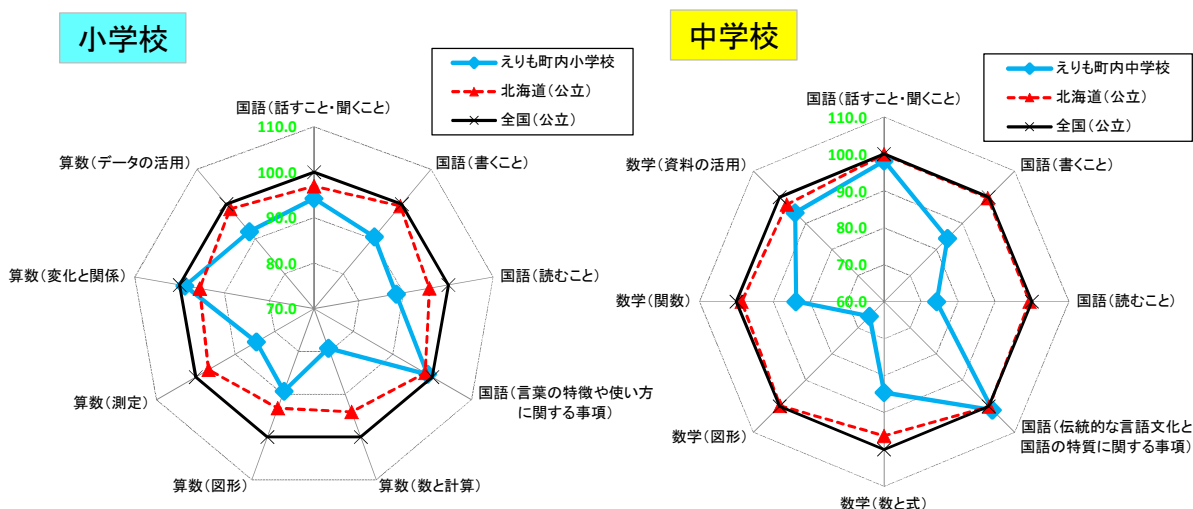
【様似町の学力向上策】

- ◎ 児童生徒の学習状況の把握・分析及び教員の授業改善の検証による、学力向上のための組織的な取組の推進
- ◎ 小・中学校の9年間を見通した、児童生徒の学習のつまずきの把握や、学校種の垣根を越えた教員の指導体制の構築
- ◎ 外国語教育の拡充による、異文化理解の促進及びコミュニケーション能力の向上に向けた取組

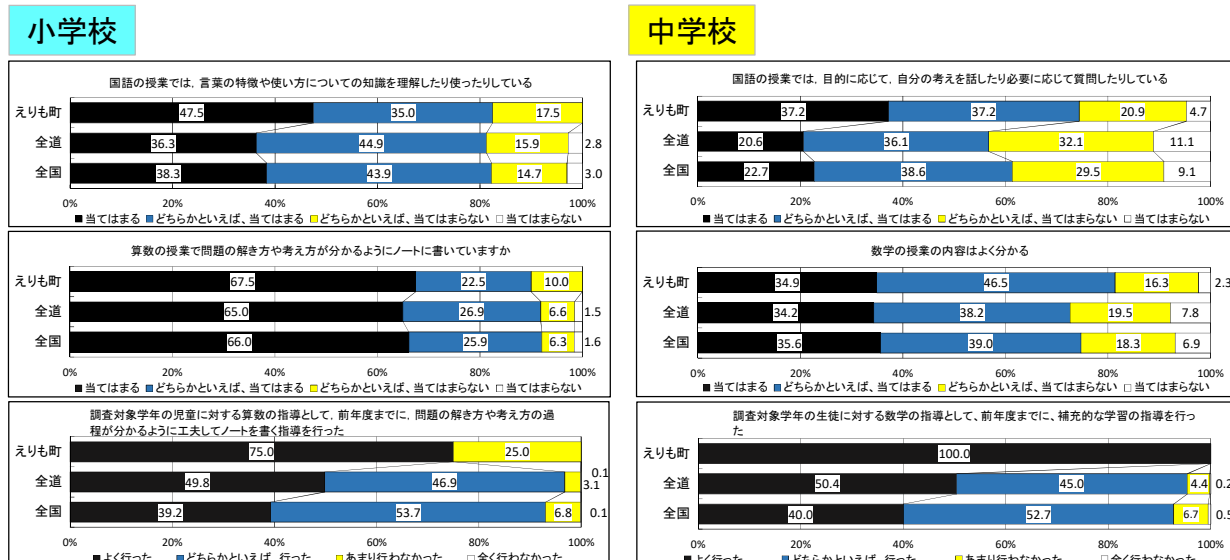
■えりも町内の状況及び学力向上策（小学校数:4校、児童数:40人）（中学校数:1校、生徒数:43人）

【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語科の授業において、主体的・対話的で深い学びの視点に基づく授業を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていると回答した児童の割合が全国を上回るとともに、「言葉の特徴や使い方に關する事項」の平均正答率が全道を上回ったと考えられる。 調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、児童の考えを重視した授業が展開され、算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますと回答した児童の割合が全国を上回ったとともに、「変化と関係」の平均正答率が全道を上回ったと考えられる。	国語科の授業において、主体的・対話的で深い学びの視点に基づく授業を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていると回答した生徒の割合が全国を上回るとともに、「伝統的な言語文化と国語の特質に關する事項」の平均正答率が全国を上回ったと考えられる。 調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、補充的な学習の指導を行ったことにより、学習内容の理解が図られ、数学の授業の内容はよく分かるかと回答した生徒の割合が全道を上回るとともに、「資料の活用」の平均正答率が最も全国に近くなったと考えられる。

【えりも町の学力向上策】

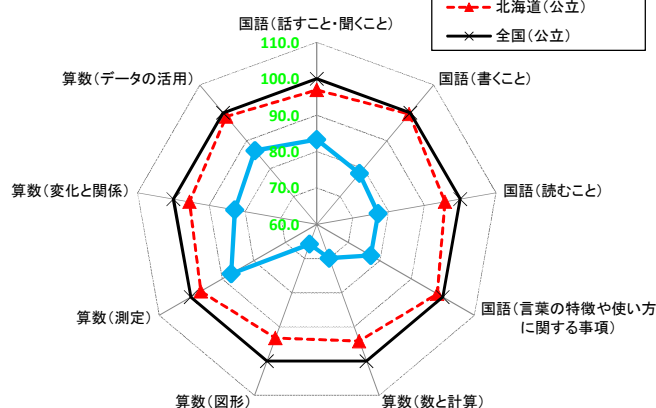
- ◎ 基礎学力アップに向けた主体的・対話的で深い学びに基づく授業改善の推進
- ◎ 授業におけるICT端末の効果的な活用による児童生徒一人一人の資質・能力を育む教育活動の推進
- ◎ 学校と家庭の連携による学習サポートの充実

■新ひだか町内の状況及び学力向上策（小学校数:6校、児童数:140人）（中学校数:3校、生徒数:121人）

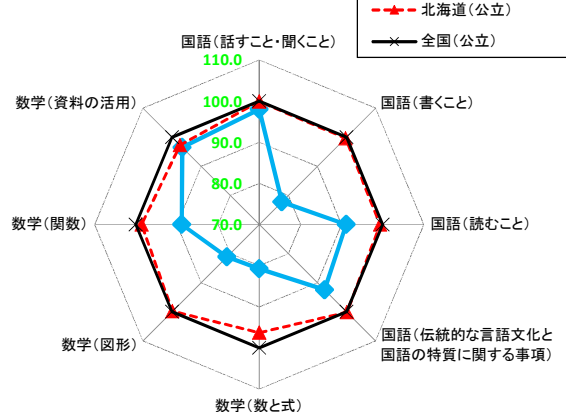
【教科全体の状況】

教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

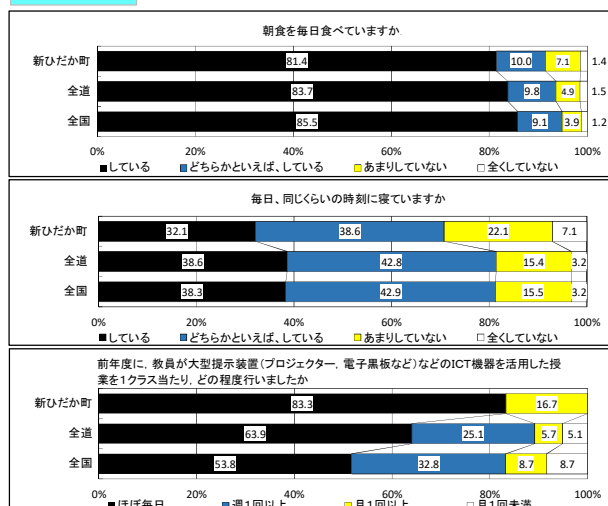


中学校

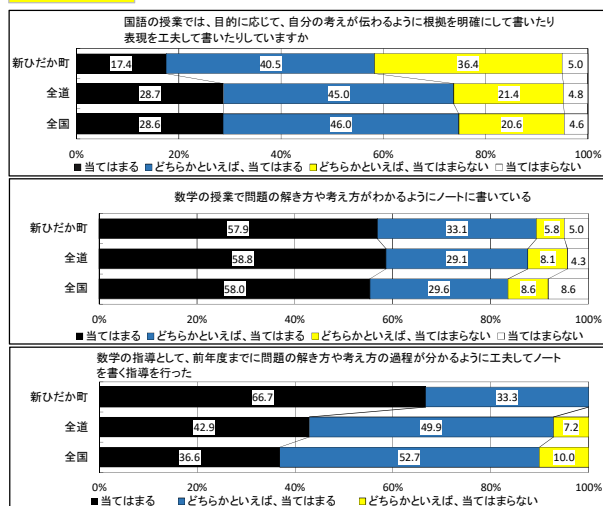


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

基礎的学力の定着に課題がある。朝食の摂取率が低く、起床・就寝時刻が不規則であるなど、家庭における生活習慣の確立が不十分であることから、家庭学習時間が確保されていないと考えられる。

ICT機器を活用した授業改善を行ったことにより、教職員のICT機器を活用する意識が高まり、ICT機器を活用した授業をほぼ毎日行っていると回答した学校の割合は、全国及び全道を上回った。

中学校

国語では、「読むこと」に加えて「書くこと」の基礎学力にも課題がある。読解力・表現力育成を目指す取組を授業過程に位置付け、他教科や学校教育活動全般においても推進しているが、定着までに時間を要している。

数学の指導として、前年度までに、課題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、生徒の考えを重視した授業が展開され、数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていると回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

【新ひだか町の学力向上策】

- ◎ 中学校区を単位とした学力向上プランの作成と小中が連携した学力向上策の推進
- ◎ 問題解決的な学習過程を位置付けるとともに、ICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善
- ◎ 放課後学習サポート及び長期休業中の公設学習塾などの学習支援体制のさらなる充実